

令和5年度 「伝統工芸なら・ふれあい 体験」実施報告

体験にはたくさんのご応募をいただきありがとうございました。
抽選の結果合計93名の方々に体験いただきました。

令和5年7月25日（火）～27日（木）
場所：奈良県産業振興総合センター
1階 イベントホール

実施概要

【 製作体験 】

日程	品目	指導者	体験参加者数
7月25日(火)	奈良団扇 (午前の部 午後の部 各入替え)	いけだ ただし 池田 匡志 先生	19名、19名
7月26日(水)	高山茶筌 (午前の部 午後の部 各入替え)	くぼ きょうすけ 久保 恭典 先生	8名、9名
7月27日(木)	赤膚焼 (午前の部 午後の部 各入替え)	おおしお ぎょくせん 大塩 玉泉 先生	19名、19名

体験参加者合計93名

奈良団扇とは…



春日大社の神官が軍扇の形にならって作ったのが始まりといわれ、江戸時代に奈良団扇として大成し、明治の初めには透かし彫り団扇も復興されました。天平模様や風物の優雅な透かし文様が特徴です。

奈良団扇の製作体験



高山茶筌とは…



室町時代、大和鷹山（現生駒市）城主の次男、鷹山民部丞（たかやまみんぶのじょう）入道宗（にゅうどうそう）砌（ぜい）が現在の形を初めて作ったといわれ、村田珠光から千利休へと茶道の隆盛とともに茶筌作りが盛んとなりその技術が代々伝承されてきました。

高山茶釜の製作体験



赤膚焼とは…



大和郡山城主の豊臣秀長が常滑の陶工を招いて窯を築いたのが始まりといわれています。乳白色の柔らかい風合いと奈良絵文様が特徴で、湯呑、花瓶、茶器、水指、置物など多様な作品が作られています。

赤膚焼の製作体験

